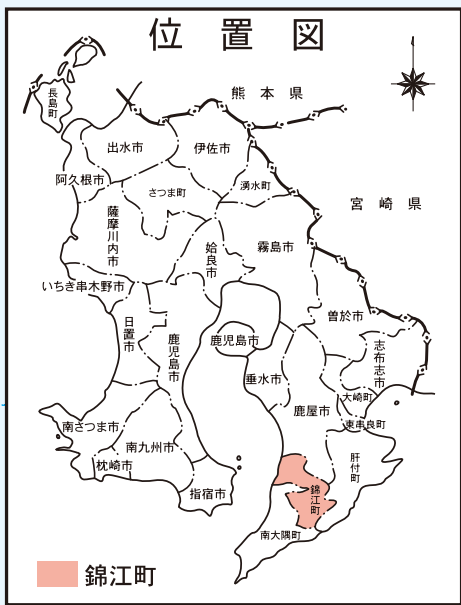




平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、津波により甚大な被害が生じました。
本町においては、鹿児島湾直下地震や日向灘地震等により、津波の可能性あることから、今回、標高0～5m、5～10m、10～15m、15～20mの地域を区分した標高マップを作成しましたので、津波避難時の際にお役立ていただきたいと考えております。
なお、標高は土地の高さを表したものであり、浸水地域を示したものではありませんのでご注意ください。

錦江町津波ハザードマップ (標高マップ) 神川・大根占地区

- 【留意事項】
- 「浸水想定図」は、県地域防災計画を策定する上で想定した最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)をあらわしたものです。
 - 「浸水想定図」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。
 - 県地域防災計画を策定する上で想定した最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 - 津波は繰り返し襲ってきて、あとから来る津波の方が大きくなることもあるため、浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大になる場合もあります。
 - 「浸水想定図」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の溯上等により、実際には水位が変化することがあります。
 - 「浸水想定図」は、国土地理院発行の最新の数値地図を複製し作成していますが、一部の埋立地等、最新の数値地図の反映されていない埋立地等もあります。

【浸水想定用語の解説】

浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上することが想定される区域

浸水深：陸上の各地点で水面が最も高くなったときの水面から地面までの深さ

海岸線

浸水域(浸水深を着色)

浸水深(m)

東京湾平均海面(T.P.)

【浸水想定域凡例】

浸水深(m)

- 20.0m以上 - 20.0m未満
- 10.0m以上 - 10.0m未満
- 5.0m以上 - 5.0m未満
- 3.0m以上 - 3.0m未満
- 2.0m以上 - 2.0m未満
- 1.0m以上 - 1.0m未満
- 0.3m以上 - 0.3m未満
- 0.01m以上 - 0.01m未満

【津波の計算条件】

- 初期潮位：朔望平均満潮位
- 堤防条件：堤防なし(津波発生と同時に破堤)

防災関係機関			
機関	名称	場所	電話
行政機関	錦江町役場	錦江町城元963	0994-22-0511
警察	錦江警察署	錦江町馬場438	0994-22-0110
消防	南部消防署	錦江町城元1055	0994-22-1199

津波の心得

津波情報に注意する



地震が発生したら、テレビやラジオ等をと
おして津波情報入手することが大切です。
津波の到達時間が満潮時に重なった場合
は、発表値より高くなる場合もあります。

安全な場所に避難する



津波情報の発令や強い揺れを感じた場合は、
速やかに高台に避難しましょう。また、津波は
第1波より第2波、第3波の方が高くなること
もあり、警報、注意報解除までは気をゆるめな
いようにしましょう。

凡例	
標高色	
	15～20m
	10～15m
	5～10m
	0～5m



避難場所

自治会名	避難先	記号
皆倉	皆倉公民館周辺	①
神川中	トロピカルガーデン	②
神川新町	町道平下線山手	③
	町道神川中原線山手	④
神川上	町道神川中原線山手	④
	丸尾方面	⑤
鳥浜	神川城方面	⑥
	宇都方面	⑦
城ヶ崎(港団地)	瀬戸山方面	⑧
塩屋、瀬戸山、本町	運動公園方面	⑨
京町、旭町、栄町	墓地公園方面	⑩
神之浜1区	瀬戸山方面	⑧
神之浜2区	国道448号線山手	⑪
麓	役場庁舎	⑫
弓場下	小学校校舎	⑬
鳥井戸	国道448号線山手	⑪
大橋上	宮脇自治会を通り国道448号線へ	⑭
大橋下		
木場	中西自治会周辺	⑮
木原	中西自治会周辺	⑮
寺前	南大隅町城内方面	⑯
山之口	南大隅町城内方面	⑯

※避難場所については平成24年3月1日現在のもの
となっております。今後、変更になる可能性があ
ります。

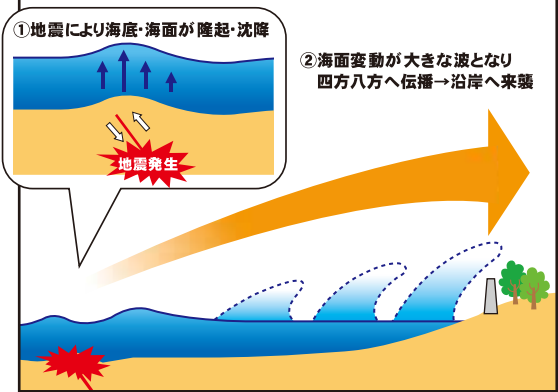
※各施設の標高は、場所によっては標高表示ライ
ンの内(外)側でも標高が高い(低い)場合があり
ますのでご注意ください。

※地図上の標高色は国土地理院刊行数値地図25000(地図画像)を基
に表示したものであり、実際とは誤差を生じる場合があります。
また標高は東京湾の平均海面(標高0m)を基準にしています。

1:20,000

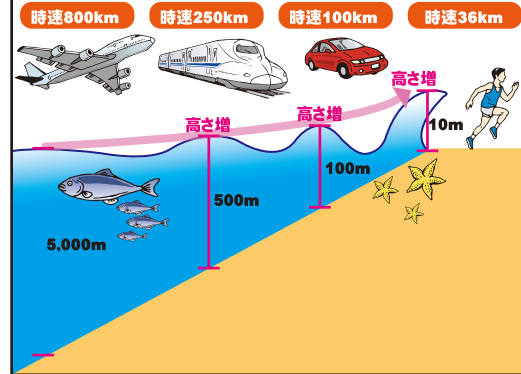
津波のしくみ

津波の発生



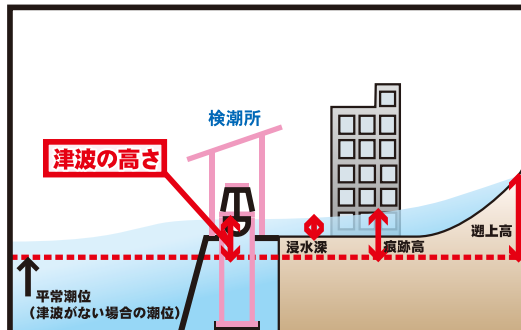
地震が発生したら、テレビやラジオ等をと
おして津波情報入手することが大切です。津波
情報には、常に注意しましょう。

津波の速さ



津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、
沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝
わります。
逆に、水深が浅くなるほど速度がおそくな
るため、津波が陸地に近づくにつれ、後から
来る波が前の波に追いつき、波高が高くなり
ます。

津波の遡上高



「津波の高さ」とは津波がない場合の潮位(平常
潮位)から、津波によって海面が上昇した時の
高さの差を言います。さらに、海岸から内陸へ津波
が、かけ上がる高さ(標高)を「遡上高」と呼
んでおり、高い場合には3～4倍程度までなる
ことが知られています。